

山口日仏協会  
2026年6月7日

Paysages sonores et  
vocaux de Paris, la ville  
mondiale

唐突なりサイタル  
世界都市パリの  
音と声の風景

安溪 遊地  
(阿東つばめ農園・  
“唐突な人” 拡散中)



ANKEI Daié,

Takako,

Yuji

07 5 31



1986-1988パリに  
住んで習った3つ  
のこと → 今ここ

- つまみぐいでない息の  
長い研究生活  
→ **生物文化多様性研究所**
- 核と原発の推進に負け  
ない農的暮らし  
→ **阿東つばめ農園**
- 扉を開けて異文化の人  
たちと友達に  
→ **おひさま交流館**

# 1. Sous le ciel de Paris パリの空の下

Sous le ciel de Paris

Les oiseaux du Bon Dieu... 神様に遣わされた鳥たち

Hum Hum

Viennent du monde entier 世界中からやってきて

Pour bavarder entre eux... 互いにおしゃべり

Marchent des amoureux... 恋人たち

Un philosophe assis... 座る哲学者

Deux musiciens quelques badauds... 音楽家

Les clochards et les gueux... ホームレス

住んだのはまるでお城のようなMaison internationale  
de la Cité universitaire



Parc de  
Montsouris

を通過して  
幼稚園へ

滞在許可申請中  
の時点で公立幼  
稚園に受け入れ



末松壽先生、  
クレール・ネ  
リ先生のご家  
族を訪ねて  
1987年8月16日

- 貴子は、ネリ先生にフランス語の初歩を教えていただきました。



## 2. Sur le pont d'Avignon アビニヨンの 橋の上で (アクションラーニング)

- 国際文化会館の「新渡戸フェロシップ」
- 松本重治理事長「勉強はするなと言ってもされるでしょうが、図書館にこもってばかりというのは趣旨がちがいます。お友達をつくって来ててください」





5 8 '87



3. El condor  
pasa. コンド  
ルは飛んで  
いく

西表島から招  
いた石垣金星  
さんと



# ゼミの風景・ケチュア語とガムランの天才少女



# 学問をめざす 女と男の風景

アフリカセンターの他に、私が民族言語学の講義を受けに行っていた「口頭伝承をもつ文明研究所」の所員は、男女が半々ぐらいです。そこで受講している学生は、女7対男3ぐらい。貴子が出ていた自然誌博物館の民族生物・地理学セミナーにいたっては、女9対男1ぐらいの割合でした。文化人類学志望者には男が多い日本とはなにかが根本的に違うようです。まず、男の研究者に説明を求めました。「人類学なんかやっちゃって食えないから女が吹きだまってくるのさ。」というような論評の仕方でした。スイス出身で、もう30年間も西アフリカのコートジボワールのある民族の研究をしているアドリーヌ（仮名）に同じことを尋ねる機会がありました。彼女の返事は、私の意表を突くものでした。「私たち女はね、人類学であろうとなんであろうと、『面白い!』と思ったら経済的なことなんかあまり考えずにそっちの方へどんどんつき進むのよ。それほどの勇気をもてる男たちは、今までのところ少ないわね。」



## 4. Gloria あら野のはてに

歩道に敷いた布団の上で、ひげを剃り終わった身だしなみのいいおじいさんと握手



若いの、ぐ  
びっとやれ。  
夏はアルザス  
でビール、冬  
はボルドーで  
ワインさ。

ごみ箱あさり  
なんかといっ  
しょにしないで  
くれよな。



政府の発表をどこまで信じられるか



5. Anna  
Magdalena  
のための音  
楽帳

- Sainte Chapelle  
でのAndré  
Navarra (1911-  
1988) のセロ

<https://delveintoeurope.com/la-sainte-chapelle-paris/>



*a (Photo credit: Galliano Castore Passerin).*



## 6. Les Parapluies de Cherbourg シェル ブールの雨傘

La porte est ouverte.  
(扉は空いてる)  
招待はしないから、  
いつでも遊びにお  
いで、ここノルマ  
ンディーに





7. Benta ra noa 宿を訪ねて (バスク語の懐メロ)



「僕もらってない」を “Il n'a pas eu.” と訳す  
のはアルザス語も同じだよ

entre Costume. Bigouden  
Quimper.  
et Audieme



en souvenir d'un délicieux  
dîner avec des amis japonais

J. Mercier

le 21 juillet 88

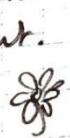
70-7112  
100702-52

merci pour le dîner / tableau  
en musique cosmopolite et le  
défilé des espers boutais

Claudine Durthe

De thé qui mousse, de petits jâteaux  
blottis dans du papier, des algues  
qui ondulent dans le potage  
tandis que le maître de maison  
anime le tout au son de la  
fémbarco, aïe!, suivi de toute  
sa troupe, avec tant de gentillesse  
et de cœur, le tout pimenté  
d'humour... Quelle soirée!  
A vos trois, merci, de ce  
joli moment.

flûtes  
guenn  
et al...



Chantal Paulus  
21. juillet, 11h 10'

11 rue St. Médard, 75005 PARIS  
47 07 63 83.



Sabotを履きシードルを年に1000本







•Crypte de St  
Denis,

パリ・モンマ  
ルトルの丘の  
ふもとにある  
イエズス会発  
祥の地下礼拝  
所　ロヨラや  
サビエルが  
集った場所

バスク語の語順は日本語と同じ ベンタラ ノア

Bentara noa 宿へ行き

Bentatik nator 宿から帰る

Bentan da nere gogoa

宿にあるよ僕の魂

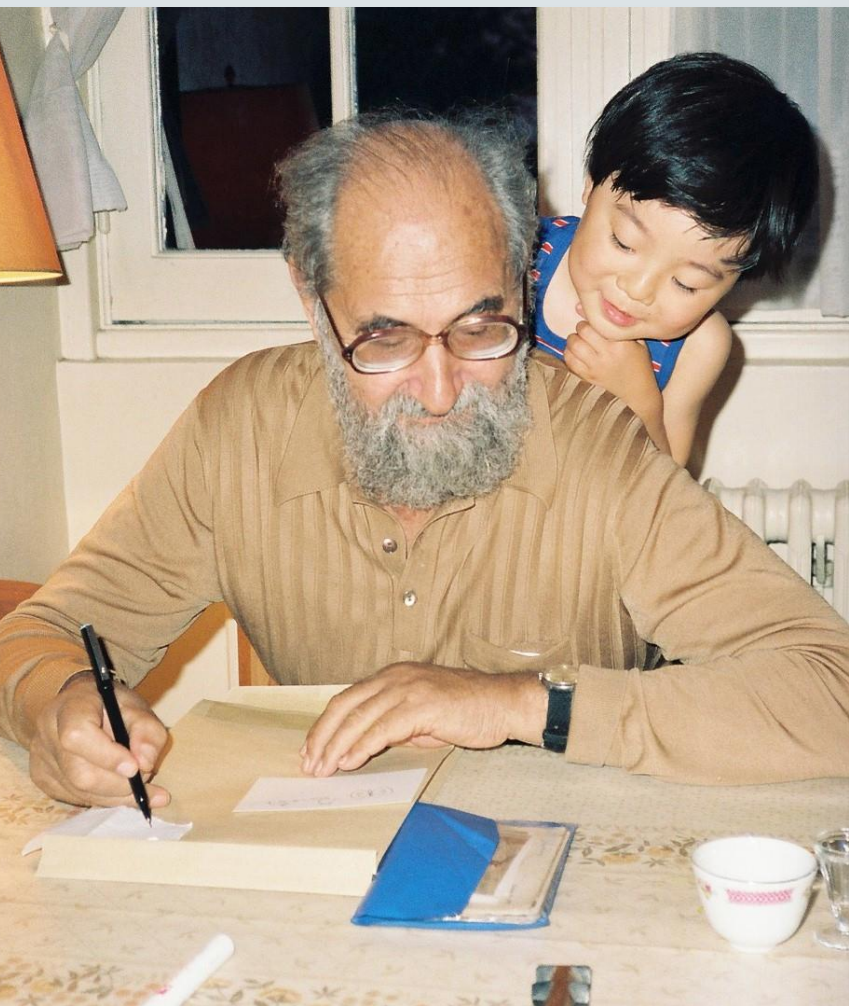
Bentako arrosa krabelinetan

宿のバラとカーネーションに

Hartu dut amodioa

愛を見つけた

# 8. Nkosi Sikelel' iAfrika コシシケレリ・アフリカ (神よアフリカとその民への祝福を)



マリ エジプト ルワンダ

アンゴラに言語文化研究所をつくるため  
民族音楽学の博士号をめざす若者たちと





マリとルワン  
ダ・ブルン  
ディの人たち

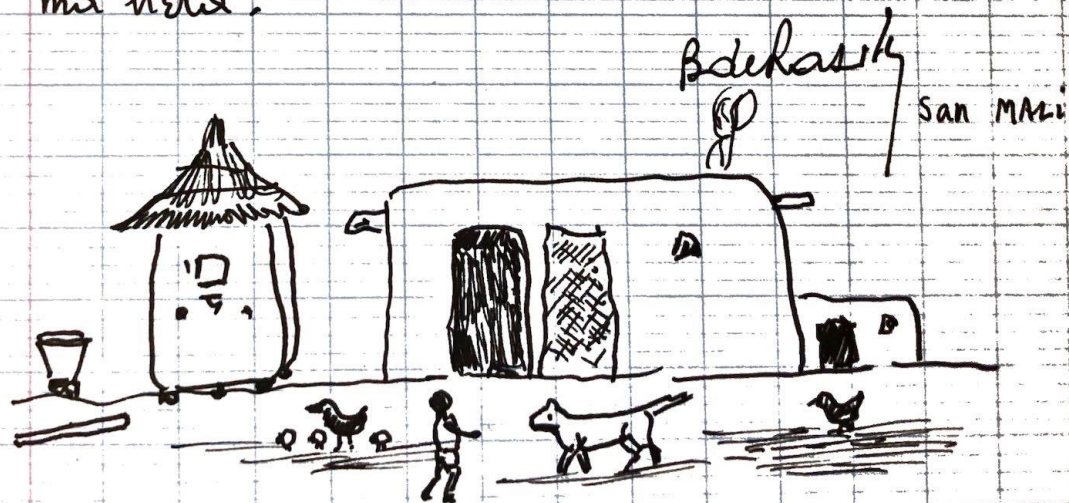
- 僕たち、  
ここでし  
か出会え  
なかった  
ね。

# マリの神父さん

Paris le 22 août 1987

boomu

tare mana bezo wabe ni-nyu zū wé -  
abe Akkai mana San Mali tūu yure, ma ni-nyu-  
wa sumuā yu, a wa pa o wa tawé a wa  
we nubyamu. - buer ū mana wa mashe tūu  
a lena wa ni 'ūpa. zere a tyre nyemiso, ū mana  
ū yia zūu - lo hāa me lo bezo 'ēne bī -  
wa pario du babe tūu tūbe ne be si na tūu pa.  
A dehwenu hā wa ma siwenu me tyohelwe  
ma here.



# Livre d'or (芳名録) の言葉たち

アラビア語・イタリア語・ポルトガル語・スペイン語・ルーマニア語・スワヒリ語・ルワンダ語・ブルンディ語・フランスのフランス語などのように、ひとつ以上の国の国語になっているもの。

ベルギーやカナダのフランス語・フランドル語・スイスのドイツ語のように、いくつかの公用語のひとつ。

南太平洋のトンガ語やフランスの西北部で話されている古いケルト系の言語のブルトン語。

さらにアフリカの諸語としてコンゴ語・バミレケ語・プラタ語・バンバラ語・ボーム語・タマシェク語・テテラ語・レガ語・ベンベ語などなど。

日本の友人たちも、日本語東京方言以外にリンガラ語・ンガンドゥ語・インドネシア語・ヒンディー語・カンナダ語・京ことば・博多弁など。

日本語を書き付けてくれたフランス人たち。

16/7/88.

Paris

L'ami que tu trouves sur ton chemin est plus qu'un ami: il est un frère

en Bamuléké *Su: nò dzin fà à fè rò*

*bá mjũ má*

Jean Régulier  
Fonkoué

L'Ami en ~~voage~~ chemin,  
le frère du sang.

道の友が血を  
わけた兄弟

- カメルーン・バミレケ語のことわざ

## 9. Porco rosso 時には昔の話を (加藤登紀子)

時には昔の話をしようか  
通いなれた なじみのあの店  
マロニエの並木が窓辺に見えてた  
コーヒーを一杯で一日  
見えない明日を むやみにさがして  
誰もが希望をたくした  
ゆれていた時代の熱い風にふかれて  
体中で瞬間(とき)を感じた そうだね

道端で眠ったこともあったね  
どこにも行けない みんなで  
お金はなくても なんとか生きてた  
貧しさが明日を運んだ  
小さな下宿屋にいく人もおしかけ  
朝まで騒いで眠った



嵐のように毎日が燃えていた  
息がきれるまで走った そうだね

一枚残った写真をごらんよ  
ひげづらの男は君だね  
どこにいるのか今ではわからない  
友達もいく人かいるけど  
あの日のすべてが空しいものだと  
それは誰にも言えない

今でも同じように見果てぬ夢を描いて  
走りつづけているよね どこかで

このプレゼンそのものや、関連記事は  
<https://ankei.jp>で  
「くさまくら」を検索  
してみてください。

---

- 阿東つばめ農園  
でワーキングホ  
リデーはいかが？
- おといあわせ  
a@ankei.jp

